

DI 調査結果（令和2年1月-3月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『景況感は5期連続で後退しており、米中貿易摩擦や今後の新型コロナウイルス拡大で予断を許さない状況である』

【調査概要】

1. 今期(令和2年1月-3月期)の業況調査DI12項目では、前期に引き続き全項目でマイナスとなり、11項目が悪化となった。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」が▲62.1(前回▲48.8)、「収益状況」も▲52.2(前回▲42.1)と、さらに減少しており、引き続き米中貿易摩擦などの影響により悪化している。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲31.3(前回▲19.3)、「受注残」▲17.0(前回▲10.0)、「生産設備」▲12.1(前回▲8.5)とさらに悪化し、景気の減速傾向が強くなっている。
3. 来期については、「来期受注」▲59.9(前回▲38.2)、「来期採算」▲55.6(前回▲36.1)、「来期資金繰」▲40.5(前回▲23.5)と、さらに悪化しており、景気減速に加え、新型コロナウイルスの影響などで、先行きについてはさらに厳しい見通しとなっている。
4. 「企業経営上の悩み」については、新型コロナウイルスの影響もあり「受注不安定」が64.8(前回52.6)とポイントを上げた。
5. 今回11項目でポイントが悪化しており、米中貿易摩擦などによる景気の失速感がさらに増しており、引き続き厳しい状態が続いている。
来期についても、景気の失速感に加え、新型コロナウイルスで外需や部品調達等に更なる影響が出てくる可能性もあり、予断を許さない状況である。この状況が続くと、資金繰りも逼迫し始めるため、国・県による金融・セーフティネット対策や雇用調整助成金の活用による雇用の維持が課題となってくる。

